

第3回滝川市部活動の地域移行に関する連絡会議会議録（要旨）

開催日時		令和7年3月14日（金） 午後6時00分から午後7時10分まで
開催場所		滝川市役所3階301・302会議室
出席者	種目団体代表者	滝川バスケットボール連盟 木下秀明氏 滝川軟式野球連盟 渡辺禎氏 滝川ソフトテニス連盟 斎藤寛氏 滝川サッカー協会 長田朋勝氏 滝川陸上競技協会 安楽良幸氏 滝川卓球連盟 経塚百合子氏 滝川バレーボール協会 菊田健二氏 滝川音楽協会 鷲尾昌法氏 滝川美術協会 三宅敬氏
	市内中学校校長	江陵中学校 橋本展晴校長 明苑中学校 渡辺禎校長 開西中学校 濱本有未代校長
欠席者	種目団体代表者	滝川バドミントン協会 佐藤勇大氏
市教育委員会職員		諏佐教育部長 福田教育部指導参事 佐藤教育総務課課長 杉山学校運営課課長 運上社会教育課課長 神馬教育総務課課長補佐 湯澤教育総務課係長

1 開会

2 教育部長挨拶

- ・前回以降の進捗状況について、小学校の取組も含め報告する。
- ・中学校ではサッカーとソフトテニスが先行して取り組んでいるが、その他の種目についても動きがあった部分について報告する。
- ・中学校の校長にも来ていただいているので、サッカーとソフトテニスだけでなく、他の種目についても現況を伺いたい。
- ・地域の方々の力を借り、市内の子どもたちが、文化芸術活動やスポーツをする環境を維持していくことがねらいであり、時間がかかっているが、引き続きご理解ご協力をお願いしたい。

3 部活動の地域移行に関する取組状況について

教育総務課神馬課長補佐から資料をもとに説明

- ・資料No.1 「滝川市における地域移行のイメージ」
- ・資料No.2 「地域移行に関する取組状況」

- ・資料No.3 「滝川市立拠点校部活動実施要項」
- ・資料No.4 「保護者宛文書（令和7年1月）」

福田教育部指導参事より小学校の取組について説明

- ・（資料No.4の3ページ）令和7年度からの地域移行を目指す2つの種目について、スクールバンドは、指導者2名と保護者の運営協力を得て「滝川ジュニアバンド」としてスタートする予定。
- ・もう一つのミニバスケットボールは、西小学校は単独で「滝川西ミニバスケットボールクラブ」という名称で保護者が運営を支える別組織を作る。滝川第三小学校と東小学校は、滝川バスケットボール連盟に主導していただき「滝川ミニバスケットボール少年団」として活動する。
- ・器楽部は資料に記載のとおり。
- ・合唱部は、地域のクローバー合唱団が受け皿となってくださった。
- ・全体としては、今年度末で一区切りがついた状況。

（質疑応答） なし

4 情報交換

【各団体の取組状況】

（滝川軟式野球連盟理事長渡辺氏）

- ・これまでも合同部活動はやってきたが、今回の野球部会では、地域移行に向けた取組として市教委が関わりながら合同部活動をやるということになった。
- ・新十津川中学校は部員が少ない状況で、これまでも協力しながらやってきたので、令和7年度からは滝川市内3中学校と新十津川中学校で合同部活動をやりたい。

（滝川陸上競技協会安楽氏）

- ・10年前から「滝川陸上クラブ」で、指導者3名が小学生十数名に指導をしている。
- ・全道大会に出るレベルで、ゆくゆくはこの組織に中学生を合体させたいと考えている。
- ・個人競技なので、団体競技よりはスムーズに進むと思うが、中学生の指導には専門的知識が必要になるため、今後は外部コーチも必要になってくるのではないかな。
- ・この連絡会議の後、滝川陸上クラブで会議の内容を共有する予定で、できれば令和8年度くらいから立ち上げていければと考えている。
- ・活動場所としては、夏は陸上競技場、冬は週1回体育館で練習するということを想定している。

（滝川卓球連盟経塚氏）

- ・1月23日に、市内の中学校の部活動顧問の先生3名と卓球連盟役員3名で話し合いをした。
- ・顧問の先生の考え（卓球を指導することへの負担についてどう考えているか）をお聞きしたところ、指導を負担とは思っていない、外部の方が指導することを心配しているという意見があった。生徒の心の動きなどは教員でなければわからないという意見もあった。
- ・今後どうするか決まったわけではないが、先生との繋がりを大事にしていきたい。
- ・卓球連盟として、今後は指導者の確保等考えていかななくてはならないと思う。

(滝川市バレーボール協会菊田氏)

- ・大きな動きはないが、2月の上旬に雨竜町を拠点とした小学生の少年団「アルテミス」の練習の拠点を滝川にできないかという相談を受けた。
- ・アルテミスには滝川市や新十津川町の生徒も参加している。
- ・相談者（アルテミスの指導者）は、滝川で活動したかったようだが、もともと雨竜町に少年団があったこともあり雨竜町に拠点を置くこととなった。
- ・滝川でやるためには、活動場所が必要となるため、教育委員会学校運営課に相談したが、現状は空きがなく、ルール作りも必要になるため、相談者には決まりましたらまた相談させていただくということで終わった。
- ・このようなことを行いながら、中学校の地域移行についても考えていきたい。

(美術協会三宅氏)

- ・事務局からの説明で、休日の部活動に外部指導者を入れる取組があったが、平日はやらなくて良いのか。
- （市教委神馬課長補佐）平日も含めてやれたらよいが、平日は指導者の確保が大変難しいこともあり、まずは休日の活動だけでも外部指導者を入れてやりましょうという取組。
- （明苑中学校渡辺校長）学校現場の教員にとって、部活動の指導は大変ということもあり、地域の方が休日だけでも指導していただけるとありがたい。技術指導がしっかりできる教員ばかりではないので、休日のみの取組等様々な形があってよいのではないかと思います。

(音楽協会鷺尾氏)

- ・学校の部活動は、活動時間や日数の取り決めなどがあるのか。また、中体連の全校応援といったものはあるのか。
- （江陵中学校橋本校長）部活動のガイドラインがあり、滝川市で示された部活動の方針を元に各学校で実施している。平日は2時間以内で少なくとも1日休日を設けること、休日は3時間以内で少なくとも1日休日を設けることなどのきまりがあり、全国的に共有されているルールで、校長はきちんと守るよう指導している。
- 中体連の応援は、部員の加入率が減っていることや、残った生徒の授業日数の確保などがあり、状況を見ながら判断している。中体連に出る場合、生徒は出席扱い、指導する教員は勤務扱いとなる。

【各中学校長から】

- ①既に取組を実施しているサッカーとソフトテニスに関して
- ②サッカーとソフトテニス以外の種目に関して

(江陵中学校橋本校長)

- ①・令和7年度からサッカーの拠点校として、新入部員も一定程度集まり、まずはスタートを切れる状況となった。拠点校としての役割を果たし機能させることが課題。

- ・ソフトテニス部は形を変えて試行を続けるということで、顧問の先生は好意的であり、初心者クラスを設けることに對しありがたいという気持ちだと思う。
- ②・野球部の部員数が少なく、自校の存廃の規定によると廃部を検討しなければならないゾーンにきているが、存廃の規定自体がかなり古く合同部活動や拠点校部活動を想定していないもので、見直す必要があると思っている。
- ・今後更に部員数が減った場合や指導者が確保できなくなった場合は、拠点校方式などを検討していかななくてはならない。
- ・自校の教員で小学生の陸上を指導しているものがあるので、中学生へ広げていければと思う。
- ・その他は、校内での議論は成熟されていないが、バスケットボールは、中体連を終えた中学3年生がクラブチームで各種大会に出場したりしているので、それをベースに地域移行を進めるという議論が今後出てくるのではないかな。

(明苑中学校渡辺校長)

※野球をメインとした校内の状況について

- ・部活動の指導をやる教員がいなくなっている。人事が大変で、未体験の教員が指導せざるを得ない実態がある。
- ・学校の生徒指導と部活動の指導の一体化から、合同部活動から抜けきれない部分があるが、できなくなるまでこの形で続けようと考えている。

(開西中学校濱本校長)

【全体的なこと】

- ・子どもたちが大人になっても楽しみを持って暮らして欲しい。
- ・今の取組はその前段階で、自分がやってみたいことを得意としている大人と繋がって地域との絆が深まっていけばと、この連絡会議に出席して感じている。
- ・この連絡会議で、滝川市内の各種目団体の活動を知ることができ、学校にとってもありがたいことだと思っている。
- ・中学校の部活動の指導は専門性が問われることが壁になっているのでは。
- ・指導者と学校のマッチングを積極的に行った方がよいと思う。
- ①・ソフトテニスの初心者クラスの取組は面白い取組で、今後どうなっていくのか注視していきたい。
- ・指導者への謝礼が少ないことが気になっている。来てもらうことが申し訳ないと思うと本来の主旨とは離れてしまうのではないかなということを感じている。
- ②・バスケだけ、野球だけということではなく、いろいろやってみて二刀流、三刀流のように多種目を選択できる環境があればよいと思う。

(質疑応答)

(滝川卓球連盟経塚氏)

- ・地域移行後の指導者の兼業兼務について、学校の教員としてではなく、地域移行後の受け入れ先が雇ってお金を払うというイメージなのか。

→ (市教委神馬課長補佐) 地域の活動の指導をする場合は、教員としてではなく、地域の活動の

指導者として本務の勤務校に兼業届を提出し許可をもらう。滝川市では市教委に兼業届を提出し、適切と認める場合は許可するが、長時間労働の場合など基準をクリアしていない場合は許可できない場合がある。

(美術協会三宅氏)

・地域移行は、将来的に学校の部活動から切り離す方向なのか。

→ (市教委神馬課長補佐) 国の方針は、当初そのようなものだったが、トーンダウンしている状況。「地域移行」という名称も「地域展開」に変更し、地域全体で子どもたちの活動を支えていくという方向になってきている。

・美術は大会がないので、イメージがわきにくい。

→ (市教委神馬課長補佐) 子どもたちのニーズは多様化しており、大会での勝ち負けにこだわるものだけでなく、楽しみたい子どももいる。先ほど開西中学校の校長からのお話にもあったが、多種目を選択できるものも考えていかなくてはならないかもしれない。簡単なことではないが、子どもたちが文化芸術やスポーツを楽しめる環境を整えるということが目的なので、従来の部活動にとらわれないことも必要かもしれない。

(滝川バスケットボール連盟木下氏)

・4月から滝川市内小学校のバスケットボールは地域移行を進めることができた。

・現在は、滝川第一小学校・第二小学校・西小学校が学校開放されているが、今後、その他の小中学校で、シャッターの設置やセキュリティの設定など工事関係が進んでいくのか。

・自分のチームで活動する時は、現在無料で体育館を貸していただいているが、今後滝川市内の子どもたちが使う場合に費用がかかってくるのか。

・滝川市内の子どもたちが地域移行という形で使用する場合は、団体として子どもたちのためにやっていることもあり、配慮願いたい。

→ (学校運営課杉山課長) ・体育館の物理的遮断はできるだけ予算措置していきたい。

・市内の子どもたちが使用する場合は、従前通り減免措置（無料）と考えているが、今後全ての学校の体育館が地域に開放されるとなると、現在有料となっている他の施設とのバランスが取れないかもしれないと思っている。

・利用料については今後の課題だと考えているが、当面は減免措置でと考えている。

→ (教育総務課佐藤課長) ・教育委員会としてはできる限りのことはやっていきたい。

(滝川サッカー協会長田氏)

・グラウンドの使用についても配慮いただきたい。

・利用料はできるだけ安く、できれば無料で使わせていただけたらと思う。

・スポーツセンターなど時々使用する大きな施設は有料でもしょうがないと思うが、日々の練習で使う場合は、地域移行の取組の中で考慮していただきたい。

・学校を無料で使えるという現状は維持していただきたい。

5 その他

事務局から連絡事項

→（市教委神馬課長補佐）今年度の連絡会議は本日で終了となる。

来年度は人事異動などで体制が変わると思うが、これまでの連絡会議で共有してきたことを踏まえ、各団体者の状況を伺いながら、部会が必要な種目は何かということや、どんな内容で開催するのかなど決めていきたいと考えている。

6 閉会

それでは、以上で第3回の滝川市部活動の地域移行に関する連絡会議を終了いたします。

大変お疲れ様でした。